

第1回長野県生涯学習審議会委員 発言要旨

日時：平成20年7月28日(月)13:30～15:30

場所：ホテル信濃路(2階)穂高

委員	発言要旨
植松委員	<p>富士見町図書館は年間約23万人の来館者。5つの目標を掲げている。安らぎのある図書館、居心地のいい図書館、一日いても飽きない施設、開館時間が長い、情報発信である図書館を目指している。子どもからお年寄りまで、とにかく来ていただき、年々来館者が増えている。</p> <p>内閣府の世論調査から、仕事が忙しく啓発の余裕がないという中で、団塊世代が目的や何をやっていいかわからない。むしろ、忙しくても働く年代に、何か目的をもたすようなしかけが考えられないか。</p>
臼田委員	<p>各種学校の生徒は、下は年長さんから、上は60代、70代まで。</p> <p>最初は緊張して授業を受ける方も、技術を身に付けることによって表情が明るくなってくる。高齢者もパソコンで映像編集ができるようになり、お孫さんのアルバムを作るなど、年代を越えたコミュニケーションのきっかけづくりになっている。</p> <p>生涯学習は年齢に関係なく、その機会があるごとに、飛び込むまでには時間がかかるが大切だと日々実感している。</p> <p>専修学校各種学校群も、今必要とされている、ゆとりと充実感のある生活や学習成果が、地域の活性化につながるような学習の場でありたい。</p> <p>学んだものをどのように社会に還元していくか、地域とのかかわりについて考えて、もう少し広い視点で、地域に還元できる中継ぎ役として活動できればいい。</p>
小泉委員	<p>働く者の視点で見ると、20世紀は市場経済万能で、ともかく生産を高めていくことによって、人間同士の絆や大切なものが忘れ去られたのではないか。</p> <p>社会環境の変化が、若い人が仕事以外のことで、サークルや集会に集まりにくくなっている。人と行動をともにすることが不得手になっているのではないか。</p> <p>県内各地の労働者福祉協議会で労働者、退職者、組合未加入の労働者の皆さんが一緒になって地域で何かできるものをつくっていこうと進めている。</p>
神津委員	<p>公民館は住民を主体にして地域づくりを協働で行うことが一つの原則である。</p> <p>誰もがあらゆる機会、いつでも、あらゆる場所、どこでも、学習できるよう、生涯学習の振興を図っている。地域総合型の生涯学習の拠点。</p> <p>住民自治と地域連携を基盤とする、総合的な地域づくりの拠点として、地域住民の生活、地域課題に向き合った学習に力をいれ、その成果を地域コミュニティづくりの実践に生かしている。</p> <p>佐久市でも、乳幼児学級から高齢者大学まで広い年齢層を対象に事業を行っている。</p>

小島委員	<p>読み聞かせボランティアがルールややり方を勉強している会をやっている。</p> <p>これからいろいろなボランティアが大切になっていくが、いつでも、どこでも、だれでもいいかという考え方はやめていかななくてはいけないのではないか。</p> <p>子育て支援について、地域や行政でいろいろしてもらえらる時代がきたが、親の位置がどこにあるのか疑問である。もう少し保護者が責任をもって子どもを育て、できないところは地域や行政で支援する必要がある。</p>
坂本委員	<p>核家族で共働きの夫婦が増えているので、子どもがどうしてもゲーム漬けやインターネット漬けになっている現状で、PTAでも問題になっている。</p> <p>ゲームやネットよりさらに魅力あるものを何か与える、魅力あるものがある環境に子どもたちを置いてあげることが必要ではないか。</p> <p>自然の家での育成会行事に参加した役員が、「子どもたちからパワーをもらって若返ったよ」と喜んでた。</p> <p>子どもたちの犯罪が少なくなればいいというところで、生涯学習や社会教育の重要性を認識した。</p> <p>家庭だけでは子どもたちが健全に育ち、笑顔を守ることが難しい時代になっている。</p> <p>たとえば、放課後子ども教室で、外国の方、障害者の方、お年寄りがたくさん集まり、子どもが外国籍の子どもに日本語を教えたり、そのお母さんから外国の文化を教えてもらったり、いろんなメリットがある気がする。子どもが幸せな小学生時代を過ごせて、社会に還元していける。そこで、お年よりも元気になればすばらしい。</p>
白戸委員	<p>長野県はかつて地域課題をどうするか、青年団や婦人会と公民館とが両輪になって社会教育の場でやっていたが、個人の教養や能力を高めることに比重がいき、地域全体を高める発想がなくなってきたのではないか。公民館、博物館、美術館、スポーツ施設など、カルチャーセンター化、あるいは貸し館的な所もあるのではないか。</p> <p>一人ひとりの問題を持ち寄って、地域の課題をみつけて解決していく機能が失われてきた。そこを解決しない限り、地域を元気にするという話には結びつかない。</p> <p>大学が公民館、美術館、博物館などいろいろな形で連携することが地域との連携。</p> <p>長野県の中に網の目のようにある、生涯学習・社会教育の活動や施設が、新しく何かをつくるより、どう活性化するかということが地域を元気にするのではないか。</p> <p>人間は自分で自分を守る力があるのだから、どうやって引き出し、力づけていくかが課題になっている。そのことが、生涯学習・社会教育に問われている。</p> <p>一部で「老犬出」という言葉があり、老犬出だから、レベルの低いことはやらないというような、地域の中で逆に差をつくってしまうこともある。学習の内容そのものの中に、どうやって地域に還元するか、緻密に考えていく必要がある。</p> <p>20代から30代の若者の学習の機会が少ない。今の雇用や労働形態にあった形を考えていく必要がある。仕事以外の活動をすることで、仕事のつらさなど乗り越えられる部分もある。</p>

塚田委員	<p>長野県レクリエーション協会は労使ともになって、よりよい職場環境をつくらうというのが出発で、職場でレクリエーション活動を展開してきた。</p> <p>高齢化社会になって、高齢者になるまで体を動かして楽しむことができる環境を提供できる場をつくっていかうとしている。一生続けていけるスポーツを提供していかうとしている。</p> <p>地域の拠点校で、多くのレクリエーションのインストラクターを輩出している。</p> <p>80歳前後まで生きるのに寝たきりではもったいない。一生体を動かして元気で楽しい人生を送ってもらいたい。</p> <p>中年を過ぎてから、あわてて生涯学習に取り組んでいるイメージがある。たとえば、放課後子ども教室のようなところで、子どもの時から学習や遊びを刷り込んでいくことが大切。年を取って思い出して、その学習に取り組めることもある。どこにスタートを置いて生涯学習に取り組んでいか考えていきたい。</p>
土井委員	<p>教壇で学生に講義していて、生活科の授業ができる力がつくのか、世の中にかかわることのできる力がつくのか、額に汗を流して大地にかかわるような力はできないだろうと考えて、土地を借りて農場を始めた。</p> <p>地域から子どもや保護者も参加して、学生たちも大喜び。作業をすることによって、話したことがない人と会話でき、人と人がつながっている。</p> <p>地域の休耕田を使って子どもたちの農業小学校をやり、定年退職された方も研修する農業大学校をやり、連携することによって、高齢者と青少年がかかわっていくようなことをやったらどうかと考えている。</p> <p>人間死ぬまで勉強ということは前から言われていた。佐藤一斎先生が「少く(わか)くして学べば、壮にして為すところあり。壮にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず。」と、三学戒を言われた。生涯にわたって学んでいくことに生きがいと喜びがある。</p>
水野委員	<p>教育は、人間教育でなければならないのに、知識教育になっているのではないか。伸びようとする芽を擁護するためにある。人間の狭間の中で生きていくための教養を身に付けることが教育である。</p> <p>子どもたちを自然の中で解き放すことやいろんな情報を入れて自分のいる場所を考えてみようというようなことをやっている。</p> <p>生まれて生を受けて、人生を振り返ったとき、「ああ、よかったな」と思える人生を送ることができればいい。</p> <p>長い時間をかけて、そして人と人が楽しく交わっていくのが教育である。</p> <p>農家のおばあさんたちが野菜を作り、自分は曲がった瓜を食べながら格好のいい瓜をみんなあげるような、生涯学習を完了している人たちを知っている。人の笑顔が欲しくて努力している。学習のあり方をもう一段考えたらどうだろうか。</p>